

Economic Indicators

発表日:2020年8月7日(金)

景気動向指数(2020年6月)

～景気の谷は2020年5月か～

第一生命経済研究所 調査研究本部

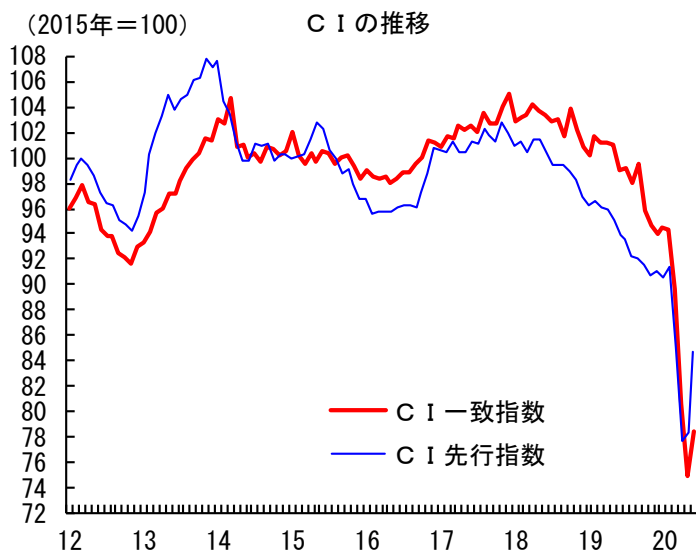
経済調査部長・首席エコノミスト 新家 義貴(Tel:03-5221-4528)

内閣府から公表された2020年6月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差+3.5ポイントと、5か月ぶりの上昇となった。内訳では、速報段階の8系列すべてでプラス寄与になったが、特に小売業販売額や耐久消費財出荷指数などの消費関連指標による押し上げが大きい。緊急事態宣言の解除を受けて営業の再開や自粛の緩和の動きが進んだことで、6月の個人消費が大幅に増加したことが反映されている。

生産予測指数において7、8月が高い伸びになっていることからみて、目先、C Iは上昇が続く可能性が高いだろう。C I一致指数も5月でいったんボトムをつけたとみられる。今後、感染急拡大による景気腰折れといった事態が避けられるのであれば、2020年5月が景気の谷になるだろう。つい先日、2018年10月が景気の山だったと認定されたばかりだが、2018年11月に始まった景気後退局面は既に終わり、足元では景気拡張局面に転じている可能性が高い。とはいえ、景気の拡張・後退はあくまで景気の見通しを見るものであることに注意が必要である。今後も拡張局面が継続したとしても、景気の水準は低いままだろう。新型コロナウイルスの感染拡大前の水準に戻るには相当の時間がかかることは間違いない。

内閣府によるC I一致指数の基調判断は6月も「悪化」となった。悪化の判断は19年8月以来11ヶ月連続である。もっとも、仮に7月以降も持ち直しが続けば、7月もしくは8月には「下げ止まり」への基調判断上方修正が視野に入ってくるだろう。

なお、今回の6月分速報より、一致指数の採用系列に「輸出数量指数」が加わった。中小企業庁「規模別製造工業生産指数」公表休止に伴い「中小企業出荷指数」が採用系列から削除されたことで、2017年1月以降は採用系列が9系列に減少していたが、今回の輸出数量指数の追加により、再び10系列に戻るようになった。



(出所)内閣府「景気動向指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

